

学 会 消 息

1. WMO 第 10 回執行委員会開催さる

去る 4 月 29 日から約 3 週間にわたり第 10 回 WMO 執行委員会がジュネーブで開催された。討議された主な議題は

- i) IGY 計画の一環として設置された気象資料中樞を観測終了後も続けるかどうか
- ii) ジェット機航空時代に対する対策
- iii) hydrology を WMO の所掌に加えることについての各加盟国の見解を検討する
- iv) 津波の調査ならびにその警報
- v) 気候図の編さん
- vi) IMO 賞の選考
- vii) WMO 事務局新庁舎の建設問題

2. 農業気象委員会ワルソーで開催

WMO の第 2 回農業気象委員会会議は来る 9 月 29 日から約 3 週間にわたり、ポーランドのワルソー市で開かれる。主な議題は、水資源開発、人工気候、農業気象予報、技術規則の検討など。

3. 隔遠地官署長会議開かる

去る 5 月 15 日、16 日東京において、隔遠地官署の署長が会合して、業務運営打合会が開催された。今年の出席官署は稚内、北見枝幸、紋別、江差、田名部、八丈島、尾鷲、西郷、剣山、油津、平戸、枕崎、尾久島、および種子島。へき地の優遇策について法の許す限り改善する意図のあることを長官が明らかにした由。

4. 樋川技官殉職さる

鳥島観測所の無線主任、樋川真行技官は去る 5 月 18 日午後“いかだ”による退避訓練中、誤って海中に転落し、同僚の手厚い看護のいかにもなく 14 時すぎ頃逝去された。巡視船“すみだ”が人事、離島、無線各課の関係、東大の鈴木医師および遺族代表 1 名を乗せて、遺体引取りに

赴き、去る 5 月 26 日、中村記念館において序葬がとり行われた。樋川技官は本年 42 才、勤続 19 年、家庭には、まつ夫人 (39 才)、浩ちゃん (4 才) および母堂てるさんが居られる。

5. 北川信一郎氏留学

本学会員の北川信一郎氏 (気象研究所地球電磁気研究部) はニューハンプシャー州ポーツマスにおける第 2 回気象電気会議の後、引つづいて、ニューメキシコ鉱工大学に「雷雲および電光放電の研究」のため 1 年間留学することになった。

6. 竹内能忠氏スクリップ海洋研究所のシンポジウムに出席

竹内能忠氏 (気象庁) は米国カリフォルニア州ラホヤ、ランチョサンカセエで開かれるカリフォルニア大学スクリップ海洋研究所主催の「1957 年～58 年の海況変動について」のシンポジウムに出席し、その後 IGY 観測計画の補助研究員として、観測船に乗船、パナマ、コロンビヤに寄港上陸して観測結果の検討打合せを行うため、5 月 28 日米国に向われた。

7. 猿橋勝子女史世界婦人集會に出席

本学会員の猿橋勝子女史は、ウィーンにおいて 6 月 1 日から 5 日まで、ウィーンにおいて開かれる「世界婦人集會」に、日本婦人科学者の会の代表として出席するため、5 月 29 日羽田を立たれた。同女史は同集會において、婦人科学者の立場から観測、研究資料をもとにして、核兵器の反対を述べられる由。

本学会創立 75 周年 記念論文集 寄贈に対する諸外国からの礼状 (1)

記念論文集、欧文編 (気象集誌特別号)、和文編 (天気特別号) に対する反響も入っていますので、諸外国からの手紙をつぎにかかげます。(国名 50 音順)

アメリカ: アメリカ気象学会 前理事長 フレッチャー氏から

3 April 1958

Dear Dr. Hatakeyama:

It was indeed a pleasure to hear from you again. Please accept my thanks, in advance, for the copy of "The 75th Anniversary Volume of the

1958 年 6 月